

2025. 2. 18 「好き」がその子を支え続ける

先日、前期課程の2年生の先生から「今週、器械運動でチャレンジタイムをするから、年長さんも一緒にどう？」と連絡を受け、年長児みんなで2年生と一緒に体育の授業に参加してきました。

最初と一緒に準備体操。そして、長いマットを2年生と一緒に運んで準備をしていきます。

準備が終わるとさっそく2年生と年長児合同でチャレンジタイム。

2年生にとっても、初めての8段跳び箱などがあり、意気揚々とチャレンジしています。

年長児らは鉄棒、マット、跳び箱とそれぞれのやりたい場所で楽しめます。

幼稚園でいろいろ考えた鉄棒のオリジナル技を試してみる子もいます。

隣でやっている2年生の男子児童Sくんは、地獄まわりや天国まわり、グライダーなど年長児が今まで見たこともない技をしていて、みんなくぎ付けになっている場面もありました。

それぞれが自由に遊んだ後、みんなを集め、2年生による技紹介の時間を少し設けます。

跳び箱では8段をすごいジャンプで跳ぶ子、跳び箱の上で前回りをする子、足を閉じて跳ぶ子…年長児も

「え？今足とじて跳んでたよ！なんで？」不思議がいっぱいです。

マットでは、ブリッジ回転や片手側転を見せてくれる2年生。「立ブリッジなら私もできるよ！」と年長児。

鉄棒では、先ほどの男子児童を始め、いろいろな子たちが高い鉄棒での技を見せてくれます。

一通りみたら、またチャレンジタイムで自由に分かれてますが、そこからチャレンジ意識が加速していきます。

跳び箱8段のところには年長児らが集まり、挑戦し始めます。この子たちは幼稚園の6段は簡単に跳べること達です。しかし、8段の跳び箱は手をつくところが縦に長い！上には乗れても、飛び越すことができません。

何回も挑戦するうちに、子供たち同士で作戦タイムが始まります。

「どうやったらあれ跳べるんだろ？」「めっちゃ早く走ったら？」「あの台をどん！って思い切り踏んだら跳べないかな？」いろいろ考えます。その後もやってみますが、どうしても超えられません。

すると、一人の女の子が「横なら跳べそうなんだけどな…」とつぶやきます。教師は「やってみる？」と聞くと

「やる！やる！やってみる！」とまた並び始めます。そこに2年生の先生もきて、コツを教えてくれ、一緒に特訓が始まります。

何回かやっていくうちについに8段を跳ぶことができました。その女の子はスキップをして喜んでいます。

鉄棒では、自分の身長より高い鉄棒を見ながら、子供たちで話をしていました。

「あその上で『王様ずわり』をしてみたい！」「どうやって上にいくの？」「この横の棒からよじ登ったら？」

「先生に持ってもらおう？」「えーこわいかも！」「2年生の子、逆上がりで回ってあがってたよ！」と相談しています。

最終的には逆上がりで上に上がることができ、王様ずわりをして「めっちゃたかい！」と嬉しそうでした。今まで見たことがない新たな景色と出会っていきます。

今回感じたのは、まずは幼稚園の子たちの興味・関心を知り、学習の進度に合わせて呼んでくれる義務教育学校とのこの距離感のありがたさ。前に鉄棒が年長で盛り上がっている話を前期の先生方としていて、それを聞いてよかったら是非一緒にと声をかけてくれました。幼稚園の子たちにとっても、新たな出会いでもあり、価値ある体験になっていきます。

もう一つは、居心地の良さ。イベント的交流でなくて、一緒に器械運動を楽しむ空間。その中で一緒に器械運動をしていくうちに、その子なりに自然とあこがれや期待感を持っていく。一人一人あこがれや期待感をもつタイミング、視点、感覚もいろいろです。この自由な時間、安心できる時間でもあり、刺激的な時間でもあるのがまた素敵です。

そして、2年前に年長保育室で、鉄棒に出会い、鉄棒が好きになり、鉄棒をとことん遊んだ男の子Sくんが、前期課程の2年生となり、先述のようにみんなの前でとても堂々と技を披露してくれていました。そして、同学年の子たちにも認められながら、力を発揮していました。幼児期に出会った「好き」がその子を支え続けている嬉しさを感じ、またその「好き」を大切にし続け寄り添ってくださる前期の先生方にも感謝でいっぱいでした。

いろいろな教科、学習の中で一人一人の「好き」が生かされ続ける、さらに「好き」が膨らみ、ある意味焦点化したり、高度化したりしながら、一人一人の個性になっていく。その子の良さになっていく。そのような幼小のつながりも感じた時間でした。

